

情報教育センター・外国語教育センター・チャレンジセンター 3センター合同FD研究会 報告書

実施報告

日時: 2013年1月12日 13:30～16:00

場所: 東海大学湘南キャンパス 14号館102教室

内容:

1. 挨拶 (高橋隆男先生、蟹江秀明先生)
2. 第1部 最新のICT機器について
3. 第2部 パネルディスカッション



1. 挨拶

高橋隆男先生(情報教育センター所長)



今回初めて3センター(情報教育センター、チャレンジセンター、外国語教育センター)で合同のFD研究会を開催することができました。文科省や中教審で教育の情報化が強く言われてきています。補助金も教育の情報化に対して出していく傾向になっている。また、学士力の保証も求められてきている中で、コンピュータ教室以外の一般教室の情報環境の整備が求められています。その目的として中教審答申の中に「求められる学士課程教育の質的転換(双方向授業や教室外学習プログラムなどによる)」を実現するには、教室の情報化が必要となってきます。日本はこの分野に関して遅れていますが、これから積極的に導入していく必要があります。今日は長時間にわたりますが、皆さんと一緒に教室のICT化とその課題について検討させて頂ければと思います。

蟹江秀明先生(法人情報化推進本部本部長)



情報化推進本部は3年前からあります。コンピュータによる教育の導入は国公立の大学の中で東海大学が最初で、まさに先駆けでした。つねに情報化に関しては先頭を走ってきました。東海大学の情報教育の地位はまだまだ上位にいます。情報化推進本部の2つの柱は、学園における情報環境の均一化を実現、もう一つが小中高大のICTにおける効率化の実現です。私はコンピュータの技術が得意でないからこそ、教育を語るができます。付属高輪高校や付属浦安高校ではICTを先進的に導入した教育を実施しています。これらの学生たちが東海大学に入学してきます。他の子どもたちも小学生からコンピュータに触れてきています。そのような時代において、教育とICTをどう結びつけるかは非常に重要です。検討の開始は決して早過ぎはしません。他の大学も積極的に進めております。限られた時間ではありますが、是非活発な議論をお願いしたいと思います。

2. 第1部 最新のICT機器について

最新 ICT 機器を紹介するため、メーカー担当者によるデモンストレーション、ビデオによる紹介が行われました。



①【紹介製品】X-info Table 【企業名】NEC

横型 52 インチのマルチタッチディスプレイについて、実物を使ったデモンストレーションが行われた。製品名のX-infoとは、情報の交錯を意味しており、ネットワークでつないだ携帯やiPad、パソコンなどと容易に情報を共有でき、X-infoの画面上に表示、共有、操作ができる様子を、一部デモンストレーションを含めながら説明がありました。巨大なタッチパネル画面では、同時に最大 10 か所の接点を認識し、同時に複数の人で操作ができ、ワンタッチでカード状の画面何枚でも画面上に表示が可能のため、会議やブレインストーミングを行う際に活用できるという説明がありました。さらに、X-info上の画面を、プロジェクターや外部モニタなどに自由に表示でき、動きのある授業などでの活用も可能であると説明されました。

【質問】

Q. 会議やミーティングなどを画面上で共有しながらできるのは、とても有効だと思うが、会議や作業、後日続きから再開することはできるか

A. ワードやパワーポイントなど、ソフトの上書きは可能だが、複数のカードを使い、自由に書き込んだ状態は、画像としては保存可能だが、同じ状態から作業を継続することはできない

②【紹介製品】ビジネスプロジェクター各種 【企業名】EPSON

EPSONからは、最新のプロジェクターをいくつか紹介頂きました。特徴としては、様々な照明環境やスクリーンの有無、スクリーンとの距離などに対応できるプロジェクターや壁掛け可能なもの、電子黒板として活用できるものなどが紹介されました。中でも、関心が高かったのは、電子黒板型のプロジェクターで、赤外線で認識する専用の電子ペンを使って、ホワイトボードとして利用出来るだけでなく、パソコンなどからの情報を表示させた上で、電子ペンで加筆する様子がデモンストレーションされました。また、プロジェクターをネットワークに接続することで、ネットワーク上の複数のパソコン画面を同時に表示したり、ネットワークプリンターを使って、画面をプリントアウトすることが可能であることが説明されました。さらに、複数台のプロジェクターを利用する環境では、すべてのプロジェクターをネットワークでつなぎ、コンピュータ上から管理することが可能で、故障の確認だけでなく、同じ画面を同時に表示できることから、地震など非常時の際に、避難の指示や連絡などを、瞬時に行うことができることも説明され、教育現場での活用性が強調されました。

③ビデオによる製品紹介 【製品名】BeeDance 【企業名】SCSK

担当者の都合により、メーカーによるデモンストレーションや説明は行われませんでした。企業HP上の説明ビデオを上映し、製品の説明を行った。BeeDanceは、iPadやスマートフォンなどの携帯型アプリケーション端末と連携し、教員の端末で作成した、択一式、記述式の問題を、学生の端末に配信すること、さらにその結果の集計も可能に行えるシステムです。イメージ情報もやりとりできるので、手書きで書き込んだものも表示でき、電子黒板やプロジェクターに投影も可能となっていました。サーバを構築し、そこにデータを保存することで、ネットワークに接続した携帯端末だけでなく、パソコンや電子黒板などと情報を共有することができるシステムでした。教育現場向けに開発されたシステムのため、アクティブラーニングに必要なクリッカーとしての活用など、具体的な利用方法がわかりやすく説明されました。

【ブースによる個別説明】

実機を使った個別説明の時間を設けた。NEC、EPSONそれぞれに多数の教職員が集まり、実際に機器に触れながら、質問や担当者の説明を受けた。自分が担当する実際の授業の内容に合せ、活用できるかなど具体的な質問をする教員が多く、関心の高さが目立った。

3. 第2部 パネルディスカッション

パネルディスカッションでは「ICT機器活用による教育効果と定量評価の可能性」というテーマで、4人のパネリストの先生方が発表を行い、その後討論と質疑等が行われました。

岡田先生はグループワーク型授業におけるiPadの有利な点をあげ、その活用事例と効果について発表しました。日向寺先生は遠隔授業、e-learning、授業支援システム、X-info TableといったICT機器を取り入れた様々な取り組みと評価方法について発表しました。Shrobsree先生は英語のみを使った授業における困難な点を事例とともにあげ、その解決としてプロジェクター、OHC、スピーカーなどを用いた音声・映像の情報伝達能力の優位性を発表しました。結城先生は外国語教育センターにおけるICT設備の現状に触れるとともに、第二外国語教育におけるICT機器の利用と定量的評価について発表しました。

コーディネーター: 菅家知洋(外国語教育センター)

パネリスト: 岡田 工 (チャレンジセンター)

日向寺 祥子(情報教育センター)

Mark Shrobsree (外国語教育センター 第1類)

結城 健太郎(外国語教育センター 第2類)



発表後の討論・質疑では、ICT機器利用のさらなる利点、利用における具体的な課題と留意点、現状の教室設備の不十分な点、また定量的評価の難しい点やその必要性などについて話し合いが行われました。